

■洞薬会（北九州地区勤務薬剤師会）5 月度学術講演会

（2013/5/16，18：30～，会場；ステーションホテル小倉）

「薬剤師として知っておきたい骨粗鬆症治療の Update」

健愛記念病院 整形外科 副院長 池田 聡 先生

〔講演要旨〕

近年、様々な疾患に対して新薬が登場してきているが、骨粗鬆症治療薬も例に洩れない。骨粗鬆症治療薬物としては 1981 年に発売されたアルファカルシドールを皮切りに、1995 年までにはエルカトニン、イブリフラボン、メナテトレノンといった薬剤が使用されていたが、骨折予防効果は十分とはいえなかった。1997 年に第一世代のビスフォスフォネート製剤であるエチドロネートが発売され、日本における骨粗鬆症治療の新たな幕が切って落とされた。さらに、骨折予防効果のエビデンスのある治療薬として 2001 年にはアレンドロネート、翌年にはリセドロネート、2004 年には SERM（Selective Estrogen-Receptor Modulator）であるラロキシフェンも使用可能となった。2009 年には国産のビスフォスフォネート製剤であるミノドロネートも発売され、2011 年には日本で初めて Monthly 製剤が発売された。このようにビスフォスフォネート製剤や SERM といった骨吸収抑制剤が骨粗鬆症の中心を担っているが、2010 年には骨形成促進剤としてテリパラチドが使用可能となり、現在ではそれぞれの患者の病態（骨吸収を抑えるべきか、骨形成を促進すべきか）に則した薬剤選択が可能となった。今後も、さらに新薬ラッシュは続く見込みである。

本講では骨粗鬆症の疫学と病態、骨粗鬆症学会が取り組んでいる「骨粗鬆症リエゾンサービス」の紹介と案内、我々のミノドロネート Monthly 製剤の臨床研究である「BP-MUSASHI study」の紹介等、現在の骨粗鬆症治療における Update を紹介し、薬剤師として骨粗鬆症治療に対する理解を深めていただければ幸いである。